琉球大学学術リポジトリ

クピワオオコウモリの繁殖スケジュールと仔育て行動：生息環境の異なる2亜種を対象として

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム
	公開日: 2009-04-16
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 佐藤, 亜希子, 中本, 敦, 伊澤, 雅子, Sato, Akiko, Nakamoto, Atsushi, Izawa, Masako
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/9876

PE-18　　クビワオオコウモリの繁殖スケジュールと仔育て行動
－生息環境の異なる2亜種を対象として－
(Reproductive cycle and nursing behavior in the Ryukyu flying-fox, *Pteropus dasymallus*)

佐藤亜希子・中本 敦・伊澤雅子
(Akiko Sato, Atsushi Nakamoto and Masako Izawa)

琉球大学理学部海洋自然科学科

クビワオオコウモリ *Pteropus dasymallus* の亜種、オリイオオコウモリ *P. d. inopinatus* とダイトウオオコウモリ *P. d. daitoensis* を対象とし、繁殖生態と仔育てに関わる行動、および、それらに対する 2 亜種の生息環境の違いの影響を明らかにするために、琉球大学キャンパス（*inopinatus*）と南大東島（*daitoensis*）において、ルートセンサス、野外の親仔の行動観察、ラジオ・トラッキング、繁殖状態の記録を行なった。

inopinatus の繁殖スケジュールには年に 1 回の明瞭な季節性が認められた。出産期のピークは 4 月中旬から 5 月中旬、育仔期間は 3.3～4 ヶ月で 8～9 月が幼獣の独立期であると考えられた。交尾期のピークは 9～10 月で、妊娠期間は最長で約 7 ヶ月であると考えられた。*daitoensis* では、繁殖スケジュールはほぼ同様であったが、9 月まで親仔が観察され、育仔期にばらつきがあることが示唆された。これは *daitoensis* が小さな、かつ過度に開発の進んだ海洋島に生息しているため餌不足になりやすいこと、さらに毎年台風の接近により撹乱を受けることから、個体の栄養状態は不安定になりやすく、妊娠開始の時期や幼獣の成長に遅れが出ることが要因の一つとして考えられた。

inopinatus の仔育て行動には、幼獣の成長に伴い 3 段階の変化があった。生後 1 ヶ月目にはメス親は幼獣を腹部に抱いて採餌していたが、生後 2 ヶ月目には仔置き場（メス親が採餌中に一時的に幼獣を置いていく場所）を利用し、授乳のために餌場と仔置き場とを往復していた。生後 3 ヶ月目には、幼獣を置いていく場所が仔置き場からねぐらに移動した。仔置き場は周囲の環境に比べて樹高が高い木が利用され、幼獣は枝の先端部に置かれている事が多く、周りから見えやすい状態であった。メス親が採餌に出かけている間の幼獣の行動には樹上での移動や飛翔訓練などがみられた。これらの特性は捕食者に対する警戒がないことを示しており、これまで沖縄島に捕食者が存在していなかったことによるものであると考えられた。*daitoensis* についての育仔個体の行動圏調査の結果、行動圏面積は幼獣をねぐらに置いて採餌する時期に拡大し、これは授乳のために仔置き場へ戻るという制約がなくなったことが一つの要因であると考えられた。